

# 松葉園 ～リハビリ通信～ 平成29年1月号

松葉園では、理学療法士常勤1名体制で、利用者様や入居者さまの身体や生活を支援しています。

## 今月のリハビリ風景

つま先を持ち上げる体操中です！



常勤1名体制ですが、利用者様のご要望に答えられるように勤めます。また、楽しんで体を動かしてもらえますよう心がけています(市川)



メドマーをかけると、足が軽くなる♪



### リハビリ小話 認知症シリーズ⑩

今月のリハビリ小話では、災害時の認知症高齢者の身体的変化をご紹介します。

認知症高齢者については、身体的観察が大切です。被災直後は交感神経の興奮により、痛みを忘れていたり(出血していても気が付かない等)ようなことも多く見受けられます。また、入浴の機会が減っているため、全身の観察の機会が失われています。加えて、水分摂取量の低下や、自律神経の乱れ等により便秘なども起こりやすくなります。次に、身体的変化を幾つかご紹介します。

① 腹部聴診  
下腹部を手で軽く押し、硬さのチェックをしてください。硬い場合は便秘の可能性があります。便秘が酷くなると発熱や嘔吐、食欲減退などの症状も現れることがあります。

② 出血の確認  
体表面で出血や内出血(痣)の痕が無いか確認してください。特に、頭部は毛髪により分かりにくいですが、打撲している可能性もありますので、注意が必要です。

③ 全身の関節の可動性の確認  
まず、自分の意志で手足が動かせるか確認してください。自ら動かせない場合は、動かしたい関節の近くを握り、動かす援助を行いながら関節の可動域の確認をゆっくりと行ってください。苦痛の表情を浮かべている場合は骨折の可能性もあります。骨折により、腫脹、発赤、熱感が見られることもあります。

④ エコノミークラス症候群(静脈血栓塞栓症)  
長時間、下肢を動かさないと、ふくらはぎに血栓ができてしまい、それが脈を通じて肺や脳の血管などを詰まらせてしまうことにより肺塞栓や深部静脈血栓症などを引き起こします。できる限りの水分摂取と、ふくらはぎを動かすようにしてください(つま先の上げ下げ等)。

ごく一部の例ですが、認知症高齢者を観察し、異常や気になる点がありましたら、近くの医療関係者への報告を行ってください。